

中海・宍道湖漁業振興対策事業

ハクレン親魚養成試験（概要）

鈴木博也

本種はコイ科の魚で植物プランクトン食で知られている。原産地はアジア大陸東部で北限は黒竜江、南限は華南またはベトナムとされている。日本へは草魚と共に移入され、既に利根川では多数の繁殖が認められているが、近年では茨城県霞ヶ浦でも大量に漁獲されている。

当分場では中海、宍道湖が淡水化された場合の魚種転換対策の一環として、本種を導入して以来、現在まで引続き養成試験を実施しているので、その概要を報告する。

昭和59年9月に稚魚1,000尾（BL 8 cm, BW 10 g）を埼玉県水産試験場から移入した。養成法は飼育池1面（282 m², 水深0.7 mで200トン、側壁はコンクリート、池底は泥、排水口側に約2坪の魚留りがある）に河川水を注水し止水型とし、コイ用配合飼料の粉末（日本農産KK製、ニューカーブマッシュ）を適宜給与する方法である。

昭和63年10月28日現在、体長は約30 cm、体重580 gに成長して約400尾を飼育しているが、未だ採卵可能な状態とはなっていない。表1に飼育魚の成長を示した。

表1 飼育魚の成長

| 項目 | 59. 9. 18 | 60. 9. 19 | 63. 1. 22 | 元. 10. 28 | 備 考 |
|-----|-----------|-------------|-------------|-----------|----------------|
| B L | 8 | 22.8~ 24.0 | 24.8± 1.4 | 31.5 | 59.9.18 1,000尾 |
| B W | 10 | 101.3~151.0 | 303.2± 45.6 | 580 | 62.1.22 422尾 |

BL (cm) BW (g) $\bar{x} \pm SD$ DATA VOL 50